

05 御議第580号  
令和5年12月13日

御殿場市長 勝又正美様

不登校児童・生徒への支援について(提言)

文部科学省が行った令和4年度「児童生徒の問題行動や不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」資料から、不登校の状態にある小中学生は29万9千人余と、10年連続で増加し過去最多。また、いじめの認知件数や暴力行為も過去最多となったことが明らかとなった。

本市においても、令和4年度における年間30日以上の不登校による欠席者は小学校65人、中学校142人と過去最多となっており、不登校への対応は喫緊の課題と考える。

本委員会は、首記テーマに基づき他自治体への視察や研修会、また、現在不登校若しくは不登校だった子どもを持つ保護者との意見交換を行い、また、11月18日には市内公立小中学校のPTA会長(若しくは副会長)、社会教育委員、市民生委員児童委員協議会地区会長及び主任児童委員に参集いただき「福祉文教委員会議会報告会」を開催した。報告会では、参加者と「不登校児童・生徒に支援向けた環境づくりについて」をテーマとし、活発な意見交換会も実施することができた。

については、このたび委員会としてこれまでの意見・要望を取りまとめたものを、ここに提言する。

御殿場市議会 福祉文教委員会

委員長 川上 秀 範

副委員長 土屋 光 行

委員 阿久根 真 一

委員 本多 丞 次

委員 神野 義 孝

委員 田代 耕 一



05 御議第580号  
令和5年12月13日

御殿場市教育長 勝亦 重夫 様

不登校児童・生徒への支援について(提言)

文部科学省が行った令和4年度「児童生徒の問題行動や不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」資料から、不登校の状態にある小中学生は29万9千人余と、10年連続で増加し過去最多。また、いじめの認知件数や暴力行為も過去最多となったことが明らかとなった。

本市においても、令和4年度における年間30日以上の不登校による欠席者は小学校65人、中学校142人と過去最多となっており、不登校への対応は喫緊の課題と考える。

本委員会は、首記テーマに基づき他自治体への視察や研修会、また、現在不登校若しくは不登校だった子どもを持つ保護者との意見交換を行い、また、11月18日には市内公立小中学校のPTA会長(若しくは副会長)、社会教育委員、市民生委員児童委員協議会地区会長及び主任児童委員に参集いただき「福祉文教委員会議会報告会」を開催した。報告会では、参加者と「不登校児童・生徒に支援向けた環境づくりについて」をテーマとし、活発な意見交換会も実施することができた。

については、このたび委員会としてこれまでの意見・要望を取りまとめたものを、ここに提言する。

御殿場市議会 福祉文教委員会

委員長 川上 秀 範

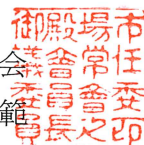
副委員長 土屋 光 行

委員 阿久根 真 一

委員 本多 丞 次

委員 神野 義 孝

委員 田代 耕 一



# 不登校児童・生徒への支援に対する提言

～教育支援センターの設立を機とし、社会全体で多様性を  
受け入れ、不登校に対する意識を変えていく～

## 提言 1. 学校・地域・家庭に求める環境づくりについて

### ① 学習機会の確保

- ・オンライン授業の導入
- ・リモートに参加できれば出席扱いとする制度
- ・リモート学習用カリキュラムの構築
- ・高校進学を見据えた学習指導
- ・様々な情報の共有と開示（不登校児童生徒支援サポート情報など）

### ② 体制づくり

- ・不登校になる前の予防策の策定と実施
- ・学校において、相談体制を確立し、教職員の負担軽減を図る。
- ・継続した相談体制の構築（これまで相談してきた担当が、年度切り替え時に配置換えとなってしまう、それまで築いてきた信頼関係がゼロになってしまうことへの改善）
- ・教育支援センター以外の様々な場所での不登校児童生徒の居場所作り（教育支援センターのような、相談や自主学習ができる場所の設置）
- ・学校、地域、家庭の信頼関係を一層深めることができる体制の構築

### ③ つながり

- ・様々な世代が交流できる場や地域行事、イベントの企画し、家庭、地域、学校で、子ども達を見守り、些細な変化に気がつくことができる環境整備すること
- ・教育支援センター設置後も、けやき館での個別学習指導の継続を求める
- ・保護者同士の連携と、そのサポート体制の構築
- ・地域での保護者への子育てサポート、相談先の拡充（子ども食堂、相談窓口など）
- ・出張カウンセラーの設置と教育・相談にかける予算の増額

## 提言 2. 教育支援センターに対する要望

- ① 配置する支援員の充実化をはかること
- ② 学校に戻すだけでなく、社会的自立を目的とした施設としていくこと
- ③ 学習機会の確保と、進学を見据えた学習指導をおこなうこと
- ④ 不登校からの脱却の第一歩として、まずはセンターに来てもらうことに意義があることを徹底すること